



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

第295号
令和6年1月31日 発行
編集責任者 初村 一郎
http://www.nagasaki-nishi.ed.jp

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「燃えろッ！ 赴任しておもうこと」

校長 初村 一郎

1月28日に、西高同窓会総会が4年ぶりに開催。そこで配付された同窓会誌「ふれんどりい」に寄稿をしていたのですが、同窓会誌は、なかなか保護者や地域の皆さんの目にふれる機会が少ないと思いますので、同窓生向けに書いた挨拶文ではありますが、西高新聞にも掲載したいと思います。以下、その内容です。

「燃えろッ！」…担任の頃から自分自身と生徒たちを鼓舞してきたスローガン。ここ数年、私が感じていた西高生の印象は、聡明で個性的、それでいて、何処となく繊細でおとなしい。昔のパンカラなイメージは影を潜め、ハイカラへと変身しています。今回、西高勤務となり、まず着任して何を話すか、いや、何を訴えるか頭に浮かんだのは、このスローガン。早速、入学式では、「燃えろッ！」の張り紙を両手で掲げ式辞を述べました。

長崎西高は、県内屈指の伝統と実績を誇る名門校。昔から他校とは一味違う自由闊達でスケールの大きな校風が魅力です。それが故に、校訓である「自律」と相まって、生徒自らの手で学校を創り上げていく気運を大切にしなければならぬと感じています。

型にはめ込まず、自らの意志でのびのびと自走する生徒たちを、我々教師も一緒になって伴走し、一緒になって感動を味わいながら、気魄と情熱を育てていけたらと思います。

私は、若い頃から「速」より「早」の精神で、仕事に向き合ってきました。熟す速さではなく取り掛かりを早く。経験上、どうしても「速」には「雑」が伴いますが、「早」には「確実」「慎重」等を感じます。実は動機は不純で、最初の頃は、いつ飲みにも誘われても断らなくていいように。それがいつしか、急な仕事が飛び込んできても笑顔で対応できるゆとりにつながりました。お酒といっしょで、教材研究も寝かせれば寝かせるだけいいアイデアが思い浮かび、いい授業につながります。温めてきた心のこもった授業を大切にしたいものです。

ICT教育が叫ばれる時代ですが、従来型の授業の良さも忘れてはいけません。確かに効率的な授業も必要ですが、回り道しながらも心を通じ合わせる瞬間も大切にしてほしいのです。電子黒板に頼りすぎず、板書に心をこめる。字の上手下手ではありません。先生方には、生徒との信頼関係があってこそその授業を実践してもらいたいです。そして、毎時間、黒板の溝を綺麗にして先生を迎える生徒たちを育ててほしいと思います。どんな時代になろうとも、教育のあるべき姿を先生方とともに追求していけたらと思います。

まだまだ道半ばではありますが、「自律の精神で笑顔と気魄あふれる生徒を育てる」ため、「燃えろッ！」の心意気で、生徒・職員を鼓舞激励しながら支えていきたいと思っています。

九州高等学校生徒理科研究発表大会 12月23日(土)・24日(日)

令和5年度九州高等学校生徒理科研究発表大会 熊本大会は、崇城大学を会場として開催されました。本校からは、県高校総文祭自然科学部門第29回科学研究発表大会で最優秀賞、優秀賞を勝ち取った物理部、化学部、生物部、地学部の7グループ20名の生徒が発表しました。結果はすべて優良賞



でしたが、九州各県代表の研究発表を見て刺激をうけたり、生徒交流会で親睦を深めたりしてきました。また、来年度8月3日から岐阜県で開催される全国総文祭への出場が決まっている物化生地4グループは、さらに研究を深化させようと気持ちを新たにしました。

【地学部顧問 藤原 秀樹】

クリスマス・コンサート 12月25日(月)

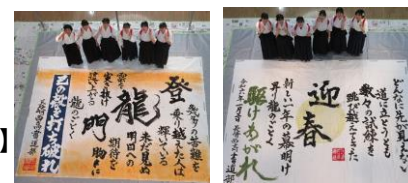
長崎原爆病院にて、音楽部・吹奏楽部クリスマス・コンサートを実施させていただきました。コロナが流行してしばらく途絶えていましたが、そろそろ再開させたいね、と話していたところ、6月に病院側からお声かけをいただきました。当日は、かわいい飾り付けが施されたホールへ患者さまやそのご家族、病院職員の方々など50名近くの方が集まってくださり、15時から、吹奏楽部は半分ずつくらいのグループに分かれ、音楽部はCDや準備していただいた電子ピアノを使い、クリスマスにふさわしい曲を40分程度披露しました。「平成17年第6回」と書かれた当コンサートの古いファイルや新聞記事が音楽室に残されていたので、西高の伝統として復活できたことを嬉しく思います。

【吹奏楽部顧問 麻生 今日子】

書道部 お正月パフォーマンス 2日(火)

長崎歴史文化博物館においてお正月パフォーマンスを2回行いました。年始から辛い出来事が各地で発生し、複雑な思いもありましたが、少しでも見てくださる方に力を届けられるよう、辰年をイメージして制作しました。このお正月パフォーマンスを始めて、今年で10回目。書道部OBや書道教室の先生方なども見に来てくださり、生徒たちは、さまざまな方の支えや繋がりを感じ、励みとなったことと思います。ありがとうございました。

【書道部顧問 嶋田 弘子】



大学入学共通テスト激励会 12日(金)

令和6年度共通テスト受験者激励会を開催しました。初村校長先生にご挨拶を頂いた後、職員を代表して3学年主任の月川先生より受験生にエールを送って頂きました。最後に、生徒を代表して、3年4組の日高慶さんより決意表明がありました。「明日からの2日間は、何も特別な日ではなく、これまで入学してから一生懸命学習に取り組んできた日々の生活の延長線上にあるもので、落ち着いて取り組むことが大切です。」元生徒会長らしい凛とした言葉に、生徒のみならず、教職員も勇気と励ましをもらったような気がします。いよいよ受験本番です。共通テスト終了後は、私立大学の一般入試や国立大学個別試験へと向かっていきます。それぞれの第一志望に向けて、最後まで学習にできるだけエネルギーを注ぎ込み、合格を勝ち取ってください。教職員一同応援しています。



【進路指導主事 福岡 圭三】

自律育成部より ～3学期を迎えるにあたって～

3学期は、各学年の仕上げる時期です。一人一人が高い意識を持って行動してほしいと思います。各自の目標を再確認して、今日からできるような具体的な行動につなげて下さい。学習面も大切ですが、特に意識して欲しいのが生活面です。

生活を整えるということは、目標達成のための環境・土台作りであり、社会へ出る準備でもあります。具体的には、3点固定(起床時間・学習開始時間・就寝時間)できているか、スマートフォンやゲームなどに時間をとられていないか、自然に気持ちの良い挨拶を自分からできているか、時間や期限を守れているか、掃除にきちんと取り組んでいるかなどです。セルフチェックをして、改善の必要があれば取り組んで下さい。

進路実現を目標に本校を志望して入学をした人たちがほとんどだと思います。目標達成のためにもその環境・土台となる生活面に目を向けて、充実した3学期にして下さい。

【自律育成部主任 前田 敦広】

学年だより

第1学年

－ 意志あるところ道開く －

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

さて、一年に節目があるように、人生にも節目があります。中学生から高校生へ、あるいは学生から社会人へ、など人生にはさまざまな節目がありそのステージ毎に気を付けるべきことがあるものです。この点について面白いことを述べている書物があります。室町時代に能楽を大成した世阿弥による「風姿花伝」です。「能」が不朽不滅の芸道として後世に引き継がれることを願い、世阿弥はその人生においてたった一冊、この秘伝書を書き残しました。明治になるまでこの秘伝書はその存在さえ知られていなかったそうです。この書によると、能の稽古はだいたい七歳くらいに始めるもので、最初は厳しく指導するのではなく子どもの自主性を重んじるそうですが、これが十二、三歳くらいになると稚児としての美しさがはっきりと表れ、その立ち居振る舞いは自然と幽玄で華やかさも備わるとのこと、ただこの時の花はその時だけの花であり永くは続かないので、しっかりと稽古に励めと諭します。十七、八歳ころになると少年期の愛らしさはなくなり、誰も見向きもしなくなる。声変わりも済ませ、役者としての魅力が一気に減退するのが、この時期だそうです。しかし、この十七、八歳の時間こそ生涯の分かれ目と意を決し、以前のあるがままの自分を脱して自らの意志によって芸道の道を磨き精進せよ、と世阿弥は説きます。

「生涯にかけて能を捨てぬより外は、稽古あるべからず。ここにて捨つれば、そのまま能は止まるべし。」世阿弥はこのように十七、八歳の時期を過ぎさねばならぬと戒めます。あるがままの自然な状態にいる自分を脱し、自らの意志と覚悟によって将来を力強く生き抜く力を体得すること、能楽においては十七、八歳という時期が、将来演技者として大成するために最も重要な時期だと訴えています。この教えは現代の高校生にもそのままあてはまるのではないのでしょうか。2024年、七十八回生の皆さんが自らの意志によって力強く人生を切り開くさまをしっかりと見届けたいと思っています。

【1学年主任 石橋 可巳】

第2学年

－ 「実際に行動してみる」の精神 －

共通テストを終えた3年生の先輩方は、来月の個別試験へ向けて、気迫に満ちた表情で日々取り組んでいます。そして、次の共通テストまであと1年を切りました。いよいよ77回生の番です。まだまだ先のことに思いがちですが、これまでの高校生活2年間があっという間に過ぎていったことを考えると、きっとすぐにやって来ます。これからの1年間は、自分を成長させる試練でもあり、同時にチャンスでもあります。その先の幸せをつかみ取れるよう、目の前のことに対して真剣に、真心をもって、粘り強く取り組んでもらいたいと思います。

先日、生徒全員分の「第1志望宣言」に目を通しました。保護者の方の励ましのメッセージを読み、同じく子供を持つ者として涙が出そうになるくらい感動しました。ありがとうございました。生徒たちは覚悟をもって「宣言」してくれたと思っています。高い目標を掲げ、自分にできるかどうか弱気になっている生徒もいると思いますが、親も教師もやることは同じです。私たちにできることは「サポート」のみです。実際に行動するのは生徒自身となります。生徒の皆さん、目標に向かって行動していますか？実際に行動できる1年にしてください。

実際に行動してもらうために過去問研究に取り組んでください。そのために「過去問研究シート」を作成しました。問題を解き、出題傾向を記入していくシートになっています。目標のために一日一日を有意義に過ごしてください。

【第2学年主任 宗田 将平】

「第一步」

十里の旅の第一歩 百里の旅の第一歩 同じ一歩でも 覚悟が違う

三笠山に登る第一歩 富士山に登る第一歩 同じ一歩でも 覚悟が違う

どこまで行くつもりか どこまで登るつもりか 目標が その日その日を 支配する

後藤 静香 (社会教育家)

第3学年

－ 最後までやり抜く －

1月13日(土)・14日(日)の共通テストは、特に大きなトラブルもなく無事に終えることができました。共通テスト翌日の自己採点後に行った学年集会で、「進路については、最後はしっかり自分で決めるように」という話をしました。今年度は共通テストから前期試験までの日数が41日間と最も長い暦となっています。そのため、共通テストで思った通りの点数がとれた人も、思っていた通りにいかなかった人も、最終結果はこの期間の頑張りに大きく左右されます。最後の最後まであきらめることなく、この41日間を目標に向かって全力でやり抜くことができる出願になることを願っています。合格最低点を0。1点でも超えていれば合格です。それに向けて、「悔いのないよう」「最後まで」「逃げることなく」「力の限り」努力しましょう。

早いもので高校生活も残りわずかとなりました。最後までお子様の進路実現に向けて尽力していきたいと思います。ご家庭でも、これまでと変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

【第3学年主任 月川 希】

大学入学共通テスト・出願校検討会 13(土)・14(日)・20(土)

1月13日(土)及び14日(日)に大学入学共通テストが実施されました。本年度の会場は長崎大学文教キャンパスでした。両日ともに天候にも恵まれ、また気温も高く、受験生にとっては比較的条件の良い状態で受験できたのではないかと思います。両日ともに大きな問題点もなく全員が受験できたのも、ひとえに保護者の皆様のご支援の賜物であり、教職員一同心より感謝申し上げます。引き続き、お子様の個別試験に向けて出願の手続きや宿泊の手配、また体調管理等でご負担とご心配をおかけ致しますが、最後までご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

また、1月15日(月)には自己採点およびWEBによる志望校入力を行い、1月20日(土)には出願に関する最終の検討会を、また、その結果を受けて21日(日)及び22日(月)の両日、出願校決定に関する面談を実施致しました。出願校の決定では最後まで悩み抜いた生徒もいましたが、時間をかけて丁寧に面談を行った結果、納得のいく出願ができたのではないかと思います。個別試験まで残り僅かとなりました。高校3年間の学習の集大成の時が迫っています。最後まで粘り強く、苦科目の補強や得意科目の伸長に取り組み、合格を勝ち取ってもらいたいと思います。保護者の皆様におかれましては、気の休まらない日々が続きますが、最後までご支援のほどよろしくお願い致します。教職員一同、受験前日まで最大限のバックアップをしていく所存です。生徒諸君の健闘を祈ります。

【進路指導主事 福岡 圭三】

ストレスマネジメント講座 16日(火)

1学年生徒を対象として「ストレスマネジメント」講座を実施し、日頃からお世話になっているスクールカウンセラーの内野成美先生からストレスとの付き合い方についてわかりやすく教えていただきました。講話ではエゴグラムを使って自分を知ることと同時に「自分と人は違う」ということの大切さを学びました。また、適度なストレスは自分を成長させること、強すぎるストレスに対しては適切な対処が有効であることなどを学びました。

また、友人の相談に耳を傾けることも立派なサポートであるが、自分だけで抱えきれない場合には、周囲の大人や相談機関に相談することなど、これからの高校生活に役立つ情報を教えていただきました。今後は学年やクラスの友人との交流を図り、相談しやすい環境づくりを意識してほしいと感じました。そして、自分にあったストレス対処法を見つけ、今後の学校生活に活かしてほしいと願います。

【生徒支援部 島田 恭子】

